

(・・・して)おき[ながら]
 (でも,)・・・よ「(でも,)やっぱり高いよ」
 (もし(万一)・・・)場合には(Should ~ be...)
 (一方は)・・・[く]なり, (一方は)・・・[く]なる
 (～が)・・・するのは・・・「キリスト教と歴史的に関係の無い国が・・・するのは」
 [(・・・だっ)たら](With one of...)
 [(し)て](動作順序 そうして・それで)「答え[て]」
 [(してい)て](and only)
 [・・・じ]「生きがいを感じ, 情熱を傾けて過ごしている」
 [・・・でない]と]・・・出来ない(条件)→・・・だから・・・出来る(因果)
 [・・・になってあまり・・・](動作順次)
 [ある・いる]+[て]の代用「目の前で」
 [から] (too の含意)
 [から] (=それから, 順次)
 [から] (因果)「・・・から」→「だから・・・だ」
 [から] (説明の付加)
 [から] (理由)
 [から]「1945年に世界最初のコンピュータが誕生して[から], たったの40年しかたっていない」
 [から]「すぎないから」
 [から]「たいていは商談のためのものですから」
 [から]「要求されるだろうから」
 [が] (yet; but)「が, むしろ・・・」
 [が] (even though とか nevertheless とか in spite of のニュアンスを含む)
 [が] (逆接, →but とコンマ+which)
 [が] (逆接)「(・・・と言っていた)[が](, 或る時・・・)」
 [が] (逆接)「・・・が, 馬鹿にしきれないものである」
 [が] (逆接)「・・・です[が]」
 [が] (逆接)「AであるがB」
 [が] (逆接)「まだはっきりと日は決まっていますが, ・・・」
 [が] (逆説)「過ごしているのですが」
 [が] (対立関係, but)
 [が] (話題導入, →のに, あろうことか)「・・・と言われている[が], ・・・」
 [が] (話題導入)
 [が] (話題導入の[が])「タブーがあるが, ・・・」
 [が]「英雄を求めているが」
 [が]→[で] (and)「二十八歳の若さだ[が], ・・・」
 [が, しかし] (ダッシュ+but)
 [く] (二文に分割)「・・・らしく」
 [けど] (逆説)
 [けれども]「仕事場なのだろう[けれども]」
 [しかし] (but; however)
 [しかし] (「実際のところ」ぐらいの[しかし])
 [しかし] (=それでも)
 [しかも] (and moreover/ not only...but)
 [して] (AしてBする)「～を排して行動する」
 [して] (それから)
 [して] (因果関係)「腰を降ろして飲む喫茶店のコーヒー」
 [して]→[してその間に] (暫時同時)
 [して]の「逆接」用法「欲して, なかなか得られない」
 [そうして] (順次)「そうして, 京都にゆくたびに, 痛切に思う」
 [そして] (関連性を強調する and)
 [そして] (次にする動作の合図, then)
 [だから] (... , so...)
 [だから] (因果)「原稿を書くために借りた部屋だから, ・・・」
 [だから] (理由)
 [だが] (逆接, 改行先頭の but)
 [だが] (逆接)「だが, どうやら・・・」
 [つつ(も)] (暫時同時)
 [て(そして)] (動作順次)「おれがルポライターをやめて, ・・・」
 [て] (音・声+順次)
 [て] (順次)・[けれど] (逆説)
 [て] (順次)「返事より先に扉があいて, 小森敦子の顔がのぞいた。」
 [て] (順次同時)「大きくて・・・」
 [て] (動作順次)「「わたしは定時に退社し{て}, まっすぐ家路についた」

[て] (動作順次) 「と言ってニヤッと笑った」
 [て] (動作順次) 「角を曲って、ゆるやかな坂をくだる」
 [て] (動作順次) 「見合わせ[て]にっこりする」
 [て] (動作順次) 「考えて、そしてほっておく」
 [て] (動作順次) 「登壇し[て]やってのける」
 [て] (動作順次) 「僕は戸をおしてなかにはいった」
 [て] (動作順次) 「～に通して下さって」
 [て] (動作順次) 「～まで行っ[て]、・・・」
 [て] (動作順次) + [と] (同時) 「老人は本から顔をあげ[て]、「これは三鷹行き。品川はあっちだ」と指す[と]、「ほんと？」と叫んで飛び出していった。」
 [て] (同時)・[ながら] (暫時同時)
 [て] (並置, and) 「痩せて薄汚れていた」
 [て] 「あたたまりすぎ[て]」
 [て] 「北崎兵吉という男がいて、いまは売れない小説を書いている」
 [ても] (whenとif) 「・・・と言っても」
 [で] (そして) (動作順次) 「メグミの肩をつかんでこちらを向かせた」
 [で] (but、ダッシュ)
 [で] (そして) 「タフで」
 [で] (軽い因果) 「[で]、私は・・・」
 [で] (瞬時同時) と[ても]
 [で] (状態順次) 「所々に農家が点在するだけ[で]、・・・」
 [で] (前置きの終了を表す) 「[で]、その離れに・・・」
 [で] (動作順次) 「社会に入りこんで経済力を獲得する事態が頻発した」
 [で] (同時・順次) 「AでBで、その反面・・・」
 [で] (同時) 「真夜中の話で・・・」
 [で] 「キリスト誕生の年を元年とする年の数え方で、いまではこの年の数え方が・・・」
 [で] 「玄関で」
 [で] はほとんどの場合「状態・動作+[て]」
 [でも] (though より yet)
 [でも] (逆接 but) 「でも東京に戻ったら」
 [でも] (逆接) 「でも、やっぱり高いよ」
 [でも] (逆接) 「でもまだ返事を聞いていません」
 [と] (瞬時同時) 「酔う[と]」
 [と] (瞬時同時) 「待っている[と]、・・・」
 [と] (瞬時同時) 「歩いている[と]・・・した」
 [と] (選択) 「「シラケ」と「アソビ」の世代」
 [と] (同時) 「男が一押し二押しする[と]女は断ることはできない」
 [と] (同時・順次) 「聞く[と]」
 [と] (同時・条件) 「・・・いる[と]」
 [と] (同時) と[て] (同時状態)
 [と] (並置) 「ロマン[と]郷愁にも似た気持」
 [ときは] 「私がうまれたときは」
 [ながら] (暫時同時)・[連用形] (動作順次) 「せんべいをかじり[ながら]、お茶を飲み、・・・」
 [ながら] (暫時同時) 「コーヒーを飲み[ながら]」
 [ながら] (暫時同時) 「飲み[ながら]」
 [ながら] (暫時同時) 「大使はドアを見つめ[ながら]」
 [ながら] (暫時同時) 「男は空を見あげながらトボトボと歩いた」
 [ながら] 「so that (al) though the building…」
 [ながら] 「プラタナスの枯葉を蹴りながら・・・」
 [ながら] 「言いながら」
 [ながら] と「文構造」(「Aの[あと]、Bしている[あいだに→時に]、Cが起きた」における関係性指標) after と when の組み合わせと述語動詞の関係)
 [ながら] と分詞構文の使い方
 [なら] (仮定) 「瀬川先生[なら]」
 [なら] (条件) 「・・・[なら]」
 [なら] (付帯条件) 「一時間ぐらいの長さの演説なら」
 [の] (in the field of) 「産業用ロボットの最先進国」
 [の] (動詞を端折る隠れ連体修飾節の[の])
 [ので] (since; as)
 [ので] (so that) 「学校から帰宅するとともにっばら英語で暮らさなければならなかった[ので]」
 [ので] (so と so that に関して)
 [ので] (so) 「娘はピアノを習っているので、・・・」
 [ので] (因果)

[ので] (因果) 「よく縁側で寝そべて(時間をすごして)いたので」
 [ので] (因果) 「車がやって来たので、道のわきへ寄った」
 [ので] (軽い因果関係) 「・・・すぐそばだったので」
 [ので] (潜んでいる理由添加, since)
 [ので] (理由, コンマ+which)
 [ので] 「連絡を受けていた[ので]」
 [のに] (「逆接」あるいは「同時」) 「いい飲み仲間になれそうだったのに」
 [のは] 「・・・したのは～になっていた」
 [ほどの] (連体修飾節との組み合わせ) 「such a... that/ the kind of ... that」
 [また] (同時) 「また、もし・・・」
 [もし・・・なら] (If.../ With.../ For...)
 [もし間違っって・・・として] (強い条件)
 [や] (選択・同時) 「腹を銀や白や灰色に光らせ」
 [ら] → [て] (同時) 「東京へ戻った[ら]」
 [り] (コンマ+which)
 [り] (動作順次) 「帰国することにな[り]」
 [わけで] (for)
 [関係性指標] (たびに)
 [関係性指標] の処理 [けど]
 [関係性指標・修辭的工夫] の選択
 [時] (暫時同時) 「・・・時・・・に気がついた」
 [連用形] (・・・で[あり] → ・・・である[から])
 [連用形] (動作順次, 預けら[れ]) 「牧師の家にあずけら[れ]」
 [連用形] (動作順次) 「自家が没落[し]」
 [連用形] 「虚空を見つめ、髪に手をやった」
 [連用形] + [て] + [連用形]
 [連用形] + [連用形] + 主動詞 (主動詞+句)
 [連用形] + [連用形] + 主動詞 (動作順次) 「～に肘を[つき], ～を合[わせ] ドアを見詰めていた」
 [連用形] + 主動詞 (順次)
 [連用形] で (逆接に処理せざると得ない例) 「はじめは、目黒と蒲田との間を結ぶ電車が通り、その頃は、・・・」
 [～だから] (因果関係 コンマ+being...)
 so...that...の構文 「胸の苦しさ」
 with (付帯状況) 「何だか怒っているみたいに身震いして」
 {主動詞+句} で処理 「ロボットは休まず、文句をいわず、正確に仕事をしてくれる」
 {主動詞+句} の連結構造
 {単位情報} の逆順配列
 {単位情報} の順序を変える
 {単位情報} の配列
 {単位情報} の配列と連結
 {単位情報} の連結 「かわいいな、とながめた」
 {単位情報} をつなぐ
 {単位情報} を並べる (直接話法と伝達動詞の関係; 連体修飾節+特定体言の処理)
 {単位情報} 順に訳す工夫 「大使は立ち上がり、書記官のあとについて来た老人に笑いかけようとして、一瞬頬をこわばらせた」
 {連体修飾節+不定代名詞的体言} の処理と原文解釈 「気軽にスケジュールを変更していく旅もまた面白いものだ」
 {連体修飾節+不定代名詞的体言 → 連体修飾節の句化+不定代名詞的体言} の技法
 ・・・・[して], ・・・だったのよ
 ・・・・[して] ・・・した (and (動作順次) か 主動詞+to不定詞)
 ・・・・[して] ・・・する 「石浜は哲之を見すえ[て]言った」
 ・・・・[て], ・・・いた (主動詞+句)
 ・・・・[て], ・・・になった (主動詞+until 節)
 ・・・・[て], ・・・になった (主動詞+句)
 ・・・・[て] ・・・した (動作順次) 「ドアが開い[て] ～が入って来た」
 ・・・・[て] ・・・しようとしていた (動作順次)
 ・・・・[て] ・・・する 「僕自身はそういうふうを考えて詩を書いています」
 ・・・・[て] ・・・だった (主動詞+句)
 ・・・・[で] ・・・していた (主動詞+句) か関係詞の代わりにセミコロンを使う
 ・・・・[で] ・・・になる (主動詞+句) 「読んで不愉快になる」
 ・・・・[連用形] + ・・・した → 主動詞+句 (具体例)
 ・・・・(し) て ・・・する 「願って・・・と名前を付けた」
 ・・・・した[ため] (with the result that...)
 ・・・・して ・・・した (主動詞+句) 「驚愕して荒々しく叫んだ」

・・・・して・・・した（主動詞＋句）「うんと肯いて苦笑した」
 ・・・・して・・・した（主動詞＋句）「フライト便を変更[して]ピッツバーグへやってきた」
 ・・・・して・・・した「布由子をともなつて訪れた」
 ・・・・してい[て], ・・・・である
 ・・・・していた（過去時制か過去進行形か）「大使はドアを見つめながら、あれこれと考えを巡らしていた」
 ・・・・するのは・・・する時だけである
 ・・・・すれば(if, when)
 ・・・・そのまま「落ちそのまま」
 ・・・・であつた[が](but)
 ・・・・という＋名詞（同格）
 ・・・・というのが・・・「それを察し合い、理解し合うのが、愛情というものなんだ」
 ・・・・とき[の]＋人・・・・「わが家の玄関の扉に手をかけるときの彼らは」
 ・・・・とよくいわれる[が], ・・・・（導入・同格の[が]）
 ・・・・と同じ、あるいはそれ以上の・・・
 ・・・・に・・・が立っている→there is... standing in...の構文が使える
 ・・・・のように思われる[が]（そうではない）
 ・・・・の場合(に)は(where; if; when)
 [（・・・する）までには]は before で
 [が]（逆説）「・・・を十分有意義な文と考えているが、・・・を確定しなければならぬ」
 [しかし] (but; yet; however; even so)
 [とか]「近代化とか物質的豊かさ」
 「[て]・・・せざるをえなかった」（「動作順次」なら and, 「因果関係」なら so that）
 「・・・が、・・・だという」の処理
 「・・・という形で」と「・・・するように」
 「・・・なんて」を訳す「四十一階に住んでるなんて、・・・」
 「・・・より・・・の方が大切なのだ」
 「・・・出来ることが～の必要条件」の構文
 「『・・・』（小村寿太郎）といったサムライ的身構え方で」の処理
 「お[え]」（連用形）
 「もの」の訳「（コーヒーは）味気ないものです」
 「よく・・・する間に」の対応
 「情報（イメージ）順」に訳す
 「連体修飾節＋不定代名詞的体言」「常連らしい客」
 『・・・』（小村寿太郎）の処理
 A[して]Bする[と], Cした
 A[と]B[と]問わず, C[と]Dを分かつ
 A[や]B[も]・・・だ[し], C[も]・・・だ（等価並列）
 AしてBする「餌が欲しくて人に媚びてくる」
 AしながらしかしBして
 Aだ[が], B
 AではなくB (not A but B)
 AではなくてB (not A, but B)
 あるいは（選択, or）
 もし・・・なら（仮定）「もし有名な曲なら」
 もしAが・・・なら, Bは・・・
 ものの列挙
 よもや自分は・・・あるまいが（強い仮定）
 コロン(:)「・・・たびに, 考える」
 隠れ連体修飾節[の]＋体言「ゆく気があることの表明」
 隠れ連体修飾節[の]＋不定代名詞的体言（別れ[の]言葉）
 隠れ連体修飾節（「信条の持主」と「信条を持っている人」の処理について）
 隠れ連体修飾節「一時間ぐらいの長さの演説」
 隠れ連体修飾節「捨てられたばかりの犬」
 隠れ連体修飾節「省力化・品質安定・コスト引き下げ」と英語の簡略化技法
 隠れ連体修飾節＋体言「・・・で非常におかしいこと」
 隠れ連体修飾節＋体言「うまいフランス料理店」
 隠れ連体修飾節＋体言「ごく常識になっているところ」
 隠れ連体修飾節＋体言「上役の服」
 隠れ連体修飾節＋体言「生活人」
 隠れ連体修飾節＋体言「東京駅から中央線の三鷹行きの始発」
 隠れ連体修飾節＋体言「粉袋をぶちまけたような雪の塊」

隠れ連体修飾節＋体言「牧場らしい木柵」
隠れ連体修飾節＋不定代名詞的体言「勤め先の大学」
隠れ連体修飾節＋不定代名詞的体言「先刻の明子の言葉」
隠れ連体修飾節＋不定代名詞的体言「宝くじ売りのおばさん」
隠れ連体修飾節＋連体修飾節＋不定代名詞的体言「目の前でにこやかにほほえんでいる小ぶとりの女性」
隠れ連体修飾節の〔の〕「映画や本〔の〕ファッション・モデルやギャングの手下」
隠れ連体修飾節の〔の〕「見事なほどの詭弁」
隠れ連体修飾節の〔の〕「この世の愛」
隠れ連体修飾節の〔の〕「ロッキードの橋本と佐藤」
隠れ連体節「設置台数」
英語では地の文に直接話法を混在させない
英語に翻訳することが困難な日本文
英語の副詞(wistfully)の使い方
英語らしい英文にする「これは有名な人と友なら、自分も有名だろうと思ってくれるのをあてにしていることである。」
格助詞[と]（同時・因果）の解釈「あの群衆を見ている[と]、・・・」
間接話法あるいは描出話法
関係詞で一体感を出す
関係詞節を使わない変換「○は□が＋他動詞」
関係代名詞を使う典型的な構造
疑似連体修飾節＋体言「杉子との次の約束の日」
客体化した表現「これで結構忙しいのだ」
逆接（しかし, however; yet）
逆接関係を表す[は]「車は止まった」
具体的な言葉を先頭に出すのが英語的
形容詞の順序・文の組み立て・文体、など
原文（・・・することになり）を忠実に訳す
原文について「どんな下積み労働者でも、一ヶ月近いヴァカンスが、法律で権利として
いるフランスが、・・・」
原文の分析「同じ学校を、自分をいじめる子どもが受験していて、一緒になりたくないという気持ちが、試験日を間違えさせた」
原文を変えて訳す（三つの連体修飾節＋体言を含む文）
言葉選び「こっちの都合も考えないで、・・・お構いなしに」
限定形容詞（連体修飾節）＋主語（不定代名詞的体言）＋副助詞[は]「その国の人たちと交流
を持てる人[は]」
固有名詞の処理「和香子は雪森厚夫に似ていると思い、向いの席に目を向けた」
語法（ただ・・・だけ）
察してか、・・・は・・・した
三つの〔単位情報〕から構成される文
三つの「連体修飾節＋体言」の処理「どう頭を捻っても・・・」
時の副詞節の位置と了解情報と未了解情報
主観連結「・・・そうよ」
主観連結「・・・ようなもの」
主観連結「なんだか、ものものしいね」
主語を揃える「パキстанは豊かではないが、いい文化、いい宗教がある」
出来るだけ元の文の情報の順序を守る
準連体修飾節＋不定代名詞的体言「この「事実」を発掘することの困難さ」
初雪が降っ[た]デンバーで・・・した[あと]・・・だった[が]・・・（文構造）
情報の比重「外交は耳だけ動かせばよろしい、口を動かす必要はない」
代名詞の指示対象「それが・・・」
単位情報の配置
地の文中の直接話法の処理「おい、おまえ、右折禁止（の標識）が見えなかったのか」
地の文中の直接話法の処理「年をとっても・・・作り上げる必要がある」
注意すべき〔連体修飾節＋不定代名詞的体言〕「真空状態になった胸の苦しさ」
直接話法と間接話法の使い分け
直接話法を地の文に入れない「男は、“しまった”と思う」
直接話法的な地の文の処理
同一主語文をコンマでつなぐ
同格の that 節
同格の〔連体修飾節＋不定代名詞的体言〕「そのアドバイスを守ったこと」
同時の[し]「済まない[し]・・・」
内在する論理性を考える「きみはいつも美しい」
日本語と英語における直接話法と間接話法
日本語における主語・目的語の補完

日本語の情報配列になるように工夫する
日本語存在構文の自然な訳出
日本文の解釈と英文の構造「進学できなかったことは、一生を通じての心のこりであったらしい」
日本文は{連体修飾節+体言}（{準単位情報}）の塊
日本文を補って訳す（個人の意見を客観的な地の文にする）
背景事態+when…「たしなめたときに、電話がなった」
発言者を入れる
卑俗な話語表現
比較構文（AよりBの中に・・・）
表現の奥を訳す「考えてほっておくべきものはほっておく」
描出話法・中間話法の使い方
複数の{単位情報}を連結する
分詞構文の感覚
文の解釈（主語の明示）
文の解釈（日本語論理から英語論理への置換）
文の解釈「永遠に生き続けることのかなわぬこの世であるから、ついには自分の老醜の姿をさらすことになる。」
文の解釈と英文の構造「年をとっても・・・これを・・・」
文の関係性をはっきりさせる「子供たちは完璧な米語を家庭のそとで習得してしまったのである。日本の学校に通うには、子供たちの日本語はあまりに貧弱であった。」
文の構造「ハードボイルドものの主人公というのは、タフで一見非情な行動力とはうらはらに、情にほだされやすい一面を持っている。」
文の構造「行手に堤防があり・・・」
文の構造「人間に対するセンチメンタルな思い入れ、そういった思い入れを許さぬ現実との離反、それはそのまま、ブルースの世界ではないだろうか。」
文を分割するか、連結辞に工夫をして元の一文を守るか
文解釈（[修辭的工夫・連用形]と副助詞[は]の組み合わせ）
文解釈（「あたし、夜景、大好き」を訳す）
文解釈「聡明に、快活に、立派に仕事をやり遂げるほど」
文解釈と翻訳「私も根っから男が好きなんだと思うんです」
文解釈の見直し
文技巧（punctuation の問題）
文技巧（so の感覚）
文技巧（「そのこと」はどの部分を指すか）
文技巧（Aであり、B）
文技巧（エッセイライティング）「子供というのは面白い」
文技巧（隠れた論理をすくい上げて訳す）
文技巧（言葉を補う）
文技巧（主観的形容詞を副詞に変えて処理する）
文技巧（受動態の文を能動態で）
文技巧（照らされているのは「闇」か「細かい雨」か）
文技巧（直接言ったことではなく頭の中で考えた言葉）
文技巧（～やら～やら）など
文技巧「いつになく元気で目をかがやかせ」
文技巧「たまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる」
文技巧「シラケることによって・・・してみる方がずっといい」
文技巧「ワシントンの秋は美しい」
文技巧「私鉄の急行で30分」
文技巧「先生の玄関先に立ったら」
文技巧「明日からヴァカンスで一ヶ月・・・」
文技巧と{連体修飾節+特定体言}「・・・に・・・を法律で権利として（八与えて・保証して）いるフランス」
文技巧について「・・・だけではなく・・・も」
文技巧について「簡易型から高級型まで」
文技巧に関して「・・・」
文構造（[連用形]・[で]・[のだが]などの処理）
文構造（文の流れと隠れ連体修飾節など）
文構造（翻訳には連結辞の知識が肝要です）
文構造「1945年に世界最初のコンピュータが誕生してから、たったの40年しかたっていない」
文構造「・・・うるためには・・・しなければならない」
文構造「・・・するちゅうのはなァ」
文構造「・・・と答えた男の子がいたのには、ビックリした。」
文構造「AかBかという議論が聞かれる」

文構造「いま、日本では17万2533台の汎用コンピュータが稼働している」
 文構造「そこから、一切の心理描写をたな上げして、ひたすら行動を追いつづける、ハードボイルドの文体が生まれた。」
 文構造「その拡がり方は、科学と技術がつくり出した「道具」の拡がりの早さとしては希有の出来事である」
 文構造「それには、技術上のさまざまな発明、努力があったにしても、根底にあったのは・・・」
 文構造「なるほど・・・かもしれないが・・・だから・・・」
 文構造「亜紀子は坂の下に広がる夜景を凝っと見ていた」
 文構造「私はそのとき、よもや自分は有名になることはあるまいが、もし間違っても将来有名な人間になったとして、どなたかが訪ねてきて下さったとき、せわしいからお目にかかれませんかなどは決していうまいとおもいましたね。」
 文構造「職業は・・・ちょっと一言では説明しにくい」
 文構造「人間にとってすぐれた「道具」をつくり出そうとする意志が一番の原動力であった」
 文構造「仲間に～という男がいた」
 文構造「～には～がたくさんいました」
 文構造「～に限らず～から～に至るまで」
 文構造「～に～がある」
 文構造と時制（現在時制）の問題
 文構造の組み換え「(たとえば)～のように・・・のだ→～中には・・・のだ」
 文章の技巧（既知性の強い情報）
 文章技巧（ピリオドで切るか、あるいはセミコロンにし、日本文の順序で訳出）
 文体の問題「その深い森の中から『白雪姫』(The Snow White)が生まれ、『ヘンデルとグレーテル』(Hendel and Gretel)が生まれた。」
 文中の直接話法「海の見えるところで暮したかったからだ」
 補わないと理解できない場合がある
 翻訳のための日本文の分析（一般論として）
 翻訳のための日本文の分析（一般論と特別事例）
 翻訳のための日本文の分析（対照）
 翻訳のための日本文の分析「・・・だった時代は終わった」
 翻訳のための日本文の分析「家事は？ 子供は？ オレはどうなるんだろう？」
 翻訳のための日本文の分析「家庭を飛び出し、社会に入りこんで経済力を獲得する・・・」
 翻訳のための日本文の分析「男であることはそれだけで偉いって？ バカにしないでヨ！」
 翻訳のための日本文の分析「男に仕えてきた」
 翻訳のための日本文の分析「男を経済力があるからと敬い、・・・する事態が頻発した」
 翻訳のための日本文の分析「男を経済力があるからと敬い・・・」
 翻訳のための日本文の分析「長年わが世の春を謳歌していた男たちにもついにヤキがまわった！」
 翻訳のための日本文の分析「敵を甘く見ていた男はただもうオロオロするばかり」
 様態（連用形）＋・・・した「目を大きく開きメグミは僕を見つめた」
 連結辞の選択と技巧（出来るだけ情報（イメージ）の順に訳す）
 連体修飾節（いちばん幸せなのは→いちばん幸せである人は）
 連体修飾節＋隠れ不定代名詞体言「キリスト生誕を基準とする西洋紀元（の暦）」
 連体修飾節＋隠れ連体修飾節＋体言「人間の強さ弱さを見抜いた凄味（すごみ）のある知恵者」
 連体修飾節＋体言（二つとwhich is why…の使い方）「果たしてそう思ってくれる人があるから、わが身を飾って各界名士を友だち扱いにする人が絶えないのである」
 連体修飾節＋体言（訳出の工夫）
 連体修飾節＋体言「お会いしなければならないこと」
 連体修飾節＋体言「この雑誌を続けられた一つの要因」
 連体修飾節＋体言「そういった思い入れを許さぬ現実」
 連体修飾節＋体言「ときどき腰を降ろして飲む喫茶店のコーヒー」を（even）if…節で処理する
 連体修飾節＋体言「或る外部にあるものをただ指示する言葉」
 連体修飾節＋体言「海の見える道」
 連体修飾節＋体言「急所にあたるところ」
 連体修飾節＋体言「見わたす限り大根畑がつづいていた時代には」
 連体修飾節＋体言「事情のある家の女」
 連体修飾節＋体言「情にほだされやすい一面」
 連体修飾節＋体言「日本で描き上げた近代家族像」
 連体修飾節＋体言「歩きまわる日」
 連体修飾節＋体言「和香子が知っている関東の丘陵や雑木林」

連体修飾節＋同格不定代名詞的体言「耳の言葉の美学をおろそかにしてきた結果」
連体修飾節＋特定体言（変形{単位情報}→[単位情報]）「～ぐらいしか浮かんでこないこの名前」
連体修飾節＋特定体言（変形{単位情報}→{単位情報}）「僕にとってはたまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる不思議な固有名詞」
連体修飾節＋特定体言「・・・していたゆかり」
連体修飾節＋特定体言「今年の初めに亡くなったイギリスのセシル・ビートン卿」
連体修飾節＋特定体言「三年ばかりニューヨークに暮らした私」
連体修飾節＋特定体言「私が生まれ、今も住んでいる東京」
連体修飾節＋特定体言「自分でフォルクスワーゲンを運転してきた沢木医師」
連体修飾節＋特定体言「初雪が降ったデンバー」
連体修飾節＋特定体言「小さな沼がそれを町から完全に隔離している、○夫人の別荘」
連体修飾節＋特定体言「食事をしている間はなごやかにレイ子と談笑していた母親」
連体修飾節＋特定体言「人間の進歩向上を信じているお人好しの左翼」
連体修飾節＋特定体言「電話口に出た古賀→古賀が電話口に出ると」
連体修飾節＋特定体言「東京も南の郊外であるこの一帯」
連体修飾節＋特定体言「彼に対して絶対的な権力をふるうおかあさん」
連体修飾節＋特定体言＋でも「世情にうとい私でも」
連体修飾節＋特定名詞「タクシーを拾おうとする梶村→梶村がタクシーを拾おうとする」と」
連体修飾節＋特定名詞「驚いたケン」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「ふしぎな明暗の照明を浴びた舞台」
連体修飾節＋不定代名詞的体言（「どう頭を捻っても」以下の、三つの連体修飾節）
連体修飾節＋不定代名詞的体言（「彼らを待ち受けていたもの」と文体）
連体修飾節＋不定代名詞的体言（なにかの企みでも交す場面）を句に変える
連体修飾節＋不定代名詞的体言「・・・と、さりげなく言われる別れの言葉」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「・・・と関係の無い国」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「・・・と答えた男の子」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「おれがルポライターをやめて、この横浜へやって来た理由」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「おれの芸のわからない世間の奴ら」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「こういうことを知っている人間」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「これまでにわたしが愛してきた女性たち」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「ごく売れない嘶家」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「そこで歌う女性ボーカリストの姿」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「そこにたたずむ人の姿」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「その海の中に点在する島々」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「その建物が沼に落としている影」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「その国の人たちと交流を持てる人」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「それまで使用されていた横断歩道」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「ほっておくべきもの」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「わたしの勤めている会社」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「アメリカに長く住んでいた日本人の一家」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「キリスト誕生の年を元年とする年の数え方」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「ゴミ・バケツをあさっていた野犬」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「シンガポールでは呂と称していた金融ブローカー」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「ドイツ人に色濃く根ざす'ロマンチック'な性情」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「マスコミが作った人間的疑似イベント(出来事)」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「ヨーロッパを旅行して、スナップ写真を撮った女性」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「愛情というもの」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「或る外部にあるものをただ指示する言葉」（続き）
連体修飾節＋不定代名詞的体言「右手十メートルくらいのところにあるホテル」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「運ばれて来たオレンジジュース」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「科学と技術がつくり出した「道具」」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「海の見えるところ」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「階段をあがって来る軽い足音」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「見覚えのあるジャコメッティの一枚の絵」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「原稿を書くために借りた部屋」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「言語にまつわる(・・・)悲劇」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「言葉が外部の事物、あるいは自分の感情でもいいですけれども、そういうものを指示するだけのもの」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「言葉で表現できるもの」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「語るべき「事実」」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「最初に思い浮かぶイメージ」
連体修飾節＋不定代名詞的体言「坂の下に広がる夜景」

連体修飾節＋不定代名詞的体言「子供を背負った貧しい主婦」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「私の筋向こうに掛けて本を読んでいる老人」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「私の座席の右側に坐った男性」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「持ってきた平たい紙包み」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「自分をいじめる子ども」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「車の窓から首を出した男」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「酒で本性をあらわす人」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「書記官のあとについて来た老人」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「進学を拒ませるなにか」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「人間ほど永生きをするもの」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「人種偏見がもつとも強い州」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「酔うと本音を吐く人」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「酔って出る性質」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「世界を股にかけて縦横無尽に大活躍する人」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「凄味(すごみ)のある(知恵者)」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「雪に覆われた丘」→分詞構文
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「早朝かかってくる電話」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「窓のそとをながれる雪げしき」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「他の南部諸州よりも劣悪である州」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「大学のある街」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「大雄弁家の名をほしいままにした人」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「男を経済力があるからと敬い、男に仕えていた女」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「池のまわりを迂回している一本の小径」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「中世をそのままのこす欧州一愛らしい町」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「沈黙でしか表現できないもの」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「敵を甘く見ていた男」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「都会が一番ひっそりと静まるとき」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「東京で知り合いだった歌手志望の若い女性」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「日本列島をおおっている大きな高気圧」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「年をとっても子供の世話などにならない強い個人」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「売れない小説」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「富山湾に面した港町」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「頬づえをついていた腕」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「北崎兵吉という男」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「目にとめるいくつかのこと」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「欲して、なかなか得られないもの」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「立ち上がる壁」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「流れすぎる歳月」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「「・・・はっと息をのませる見事さ」
 連体修飾節＋不定代名詞的体言「「日本人自身が当たり前と思っている・・・」
 連体修飾節＋不定代名詞的名詞に見える日本語「お客さんが来る約束」
 連体修飾節＋不定代名詞的名詞「何時？を言わせない何か」
 連体修飾節＋不定代名詞的名詞「壊れた愛」
 連体修飾節＋不定代名詞的名詞「見よう見まねで矢を削り、弓をつくっていた子供たち」
 連体修飾節＋不定題名詞的体言「言うこと」
 連体修飾節が二つ重なる場合の処理「ノンフィクションを成立させている二つの条件」
 連体修飾節の処理「とくに親しい人でなく、学校で同じ勉強をしているというだけのその人」
 連用形＋・・・「耳は・・・を聞き、心は・・・にある」
 連用中止（順次）
 論理的な流れと文表現
 話題導入・前置きの[が]
 ～があ[り]（順次）
 ～というのは・・・である
 ～ばかりでなく・・・（not only ～ but...）